

平成 29 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

多様な人々が集う定時制の課程で、勉強がわかる喜び・人に認められ人と理解し合える喜び・夢や志を抱く喜びを伝え、生徒たちに生き生きとした生活を保障する学校をめざす。

1. 生徒が自分の未来を創造できる学校
2. 生徒一人一人が大切にされる安全で安心な学校
3. 地域・家庭と連携し、協力して生徒を育てる学校

2 中期的目標

1 勉強がわかる喜びを伝える

(1) 授業内容が「分かること」の楽しさを体験することで、「学ぶこと」に意欲をもつ生徒を育てる。

ア 生徒が「分かった」と実感できる授業づくりに取り組み、学力の定着及び出席者の増加を図る。

- ① 生徒の学力に応じたわかりやすい教材を作成し授業を行う。
- ② ICTや視覚教材を用いた授業および参加体験型の授業を導入し、生徒の学習意欲を高める。
- ③ 授業見学、研究授業等により、各教員が指導法の工夫・改善に取り組む。

※学校教育自己診断で「学校の授業はわかりやすい」の肯定率（H28年度は80%）をH31年度には89%にする。

イ 授業規律について指導する意識を共有し、生徒が落ち着いて学習できる環境づくりに努める。

※学校教育自己診断の「授業中は落ち着いて学習できる雰囲気である」の肯定率（H28年度は66%）をH31年度には75%にする。

ウ ア、イを実践した結果として、授業に出席する生徒を増やし、中退防止につなげる。

(2) 教員の図書委員の取り組みを活性化し、生徒による図書室の利用を促進する。

2 人に認められ人と理解しあえる喜びを伝える

(1) 命の大切さ・人権意識・善悪の判断など、人間としての基本的な倫理観や規範意識を育てる。

ア 生徒指導時のみならず、教科の学習およびHR・総合的な学習の時間、行事等も含めた教育活動全体を通して指導する。

※生徒向け学校教育自己診断における「命、社会のルール」の肯定率（H28年度77%）をH31年度には81%以上にする。

(2) 様々な教育活動で人と関わる体験を通して、コミュニケーション力の育成を図る。

ア 挨拶ができる生徒を育てる。

イ 生徒会行事、遠足、修学旅行等に安心して参加できる環境を作り、仲間とともに行事に参加できる生徒を育てる。

ウ 各種行事において、保護者や地域住民および地域の中学校教員と積極的に連携・交流を図る。

エ ボランティア活動や部活動等を通し、学校に対する誇りと自己肯定感を育てる。

※学校行事等で来校する学校外部の人の数を、前年比5%を目標に増やす。

(3) 生徒指導に際して、各教員が生徒との人間関係を大切にしながら、家庭・中学校・地域との連携を密にして取り組む。

※保護者向け学校教育自己診断における「学校は、家庭への連絡や意思疎通を行っている」の肯定率（H28年度87%）をH31年度には90%以上にする

(4) 「様々な課題を抱える生徒の高校生活支援事業」を活用し、中退防止コーディネーターを中心に困難を抱える生徒への支援体制を整え、

H31年度までに、文部科学省が公表する平成26年度全国公立高等学校定時制課程の中途退学率の11.1%以下を目標とする。

※中退率 H26年度 20.6% → H31年度末 11.1%にする。

3 夢や志を抱く喜びを伝える

(1) 生徒が自己の将来について考え、自らの生き方を選択できるように進路指導の充実を図る。

ア 進路に関する十分な情報を生徒に提供するとともに、保護者にもその情報が届くようにする。

イ 進路ガイダンス機能の充実を図るとともに、個々の生徒のニーズに合った進路指導をする。

ウ 就業体験をする生徒を増やす。

※卒業生徒の進路決定率（H28年度3月31日現在62.3%）をH31年度も60%以上を保つ。

※生徒向け学校教育自己診断における「進路指導満足度」（H28年度86%）をH31年度には90%以上にする。

4 組織の活性化と人材育成

(1) 校内組織の活性化と職務の効率化の取組み

校務検討委員会を中心に学校改革を推進する。

(2) 首席を中心に、経験年数の少ない教員の育成に取り組む。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 勉強がわかる喜びを伝える	<p>(1)「分かること」の楽しさを体験できる授業づくり</p> <p>ア 生徒が「分かった」と実感できる授業づくりに取り組み、学力の定着及び出席者の増加を図る</p> <p>イ 授業規律について指導する意識を共有し、生徒が落ち着いて学習できる環境づくりに努める。</p> <p>ウ ア、イを実践した結果として、生徒の授業への出席率を増やし、中退防止につなげる。</p> <p>(2) 教員の図書委員の取り組みを活性化し、生徒による図書室の利用を促進する</p>	<p>ア・わかりやすい授業をする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の中で生徒に考えさせる時間を取る ・授業の中で生徒とコミュニケーションを取る ・生徒の学力に応じた教材の作成や補助教材（ICTや視聴覚教材）の使用等により工夫して授業を行う ・授業中に生徒の知識・技能の定着をはかる ・授業見学、研究授業、研修等により、各教員が指導法の工夫・改善に取り組む。その際に教育実践に役立つよう内容を精査する <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業中の携帯電話指導を継続する ・授業遅刻に対する指導を強化する <p>図書室利用に関する月ごとの統計を取り、生徒の利用を促す取り組みをする。</p>	<p>ア・学校教育自己診断で「学校の授業の説明はわかりやすい」の肯定率を3%上げる（H28, 80%）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業アンケート「授業内容に興味関心を持つことができた」の学校平均を0.05上げる（H28, 3.17） ・「先生は授業中生徒とコミュニケーションを取っている」の学校平均を0.05上げる（H28, 3.36） ・「先生は色々な教材を工夫して授業を行っている」の学校平均を0.05上げる（H28, 3.27） ・「授業を受けて知識や技能が身に付いた」の学校平均を0.05上げる（H28, 3.22） ・年3回以上研究授業や授業研修を行う <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業アンケート「私は授業中、携帯・居眠り・私語をしていない」の学校平均0.05上げる（H28, 3.45） ・学校教育自己診断で「落ち着いて学習できる雰囲気である」の肯定率を3%上げる（H28, 77%） <p>ウ・H28年度中退率（18.8%）より3%下げる。</p> <p>毎月の生徒の図書室利用の増加</p>	

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">2 人に認められ、人と理解しあえる喜びを伝える</p>	<p>(1) 基本的な倫理観や規範意識を育てる。</p> <p>ア 教科の学習およびHR・総合的な学習の時間等も含めた教育活動全体を通じた指導</p> <p>(2) 人と関わる体験を通して、コミュニケーション能力の育成を図る。</p> <p>ア 挨拶ができる生徒を育てる。</p> <p>イ 生徒会行事、遠足、修学旅行等に安心して参加できる環境を作り、仲間とともに行事に参加できる生徒の育てる</p> <p>ウ 各種行事において、保護者や地域住民および地域の中学校教員と積極的に連携・交流を図る。</p> <p>エ ボランティア活動や部活動等を通し、学校に対する誇りと自己肯定感を育てる。</p> <p>(3) 生徒指導に際して、各教員が生徒との人間関係を大切にしながら、家庭・中学校・地域との連携を密にして取り組む。</p> <p>(4) 中退防止コーディネーターを中心に困難を抱える生徒への支援体制を整える。</p>	<p>ア・外部人材等を有効活用し、HR及び総合的な学習の時間を計画的に実施することで、「学ぶこと」・「生きること」・「社会とのかかわり」について考える機会を設ける。</p> <p>(2)</p> <p>ア ・教職員から生徒に積極的に挨拶するとともに、挨拶をすることの大切さについて生徒に伝える機会を設ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・始業・終業時に挨拶ができるようにする。 <p>イ ・生徒を中心とした生徒会行事の企画運営を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行事に参加する生徒の人数を増やす。 <p>ウ ・各種行事に対する広報活動の活発化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体育祭・文化祭へ地域の方を招待する <p>エ ・ボランティア活動の継続</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部活動の活性化をする <p>(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒に対し傾聴し、理解し、話し合いによる指導を実践する ・HP等で学校の情報を発信する <p>(4) 中退防止コーディネーターを中心にSCやSSWとともに、困難を抱える生徒への支援体制を整え、生徒個々に対応した指導をおこなう。</p>	<p>ア・学校教育自己診断における「命の大切さ、社会のルール、人権の大切さについて考える機会がある」の肯定率を3%向上させる (H28, 77%)</p> <p>(2)</p> <p>ア・学校教育自己診断の「先生に挨拶をしている」の肯定率を3%向上させる (H28, 77%)</p> <p>イ・学校教育自己診断「体育祭、文化祭などの学校行事はみんなが楽しく行えている」の肯定率を3%上げる (H28, 62%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行事の生徒参加率を体育祭を3%増やす。文化祭を4%増やす。(H28, 体育祭 49.4%、文化祭 46.5%) <p>ウ・体育祭、文化祭に来校する保護者、地域住民、中学校教員の人数を前年度より増やす (H28、合計 337名)</p> <p>エ・ボランティア活動の継続</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部活動加入率(H28, 30%)を3%増加させる <p>(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育自己診断における「先生の指導について理解できる」の肯定率を2%上げる (H28, 83%) ・保護者向け学校教育自己診断における「学校は、家庭への連絡や意思疎通を行っている」の肯定率を1%上げる (H28, 87%) <p>(4)</p> <p>中退率を3%下げる (H28, 18.8%)</p>	
--	--	---	---	--

<p style="text-align: center;">3 夢や志を抱く喜びを伝える</p>	<p>(1) 進路指導の充実を図る。</p> <p>ア 進路に関する十分な情報を生徒に提供するとともに、保護者にもその情報が届くようにする。</p> <p>イ 進路ガイダンス機能の充実を図るとともに、個々の生徒のニーズに合った進路指導をする。</p> <p>ウ 就業体験をする生徒を増やす。</p>	<p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路のHRや総合的な学習の時間を進路指導計画の中で明確に位置づけ、情報提供を行う。 ・外部機関と連携し、生徒が色々な人の生き方に触れる機会を設ける ・生徒に提供した情報が保護者にも届くようにする。 <p>イ・担任が生徒と十分話し合うとともに、担任が進路担当者との連絡を密にする。</p> <p>ウ・一人でも多くの生徒が就業体験ができるように、アルバイト等を紹介する。</p>	<p>ア、イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育自己診断における「自分の将来について考える機会がある」の肯定率を3%上げる (H28, 73%) ・学校教育自己診断における「学校は就職や進学についての情報を十分に知らせてくれる」の肯定率を3%上げる (H28, 86%) ・保護者向け学校教育自己診断における「学校は、就職や進学について、適切な指導を行っている」の肯定率を3%上げる (H28, 86%) ・卒業生の進路決定率が平成26年度は高く60%であった。(H24, 40%、H25, 50%、H27, 55.8%) H29年度も60%をめざす <p>ウ・生徒の5月時点の就業率よりも年度末の就業率を5%高くする。</p>	
<p style="text-align: center;">4 校内組織の活性化と 人材育成</p>	<p>(1) 校内組織の活性化と職務の効率化の取組み</p> <p>ア 校務検討委員会を中心に学校改革を推進する。</p> <p>(2) 首席を中心に経験年数の少ない教員の育成に取り組む</p>	<p>ア・本校の将来めざすべき方向性、取り組むべき施策、解決すべき課題について具体的な取り組みを話し合い提案する。</p> <p>(2)・首席が中心となり、経験年数の少ない教員の育成を主眼とした研修を計画し、実施する。</p>	<p>ア・具体的な提案がなされたか</p> <p>(2)・年間に3回以上の育成のための研修が実施できたか</p>	